

経営比較分析表（令和2年度決算）

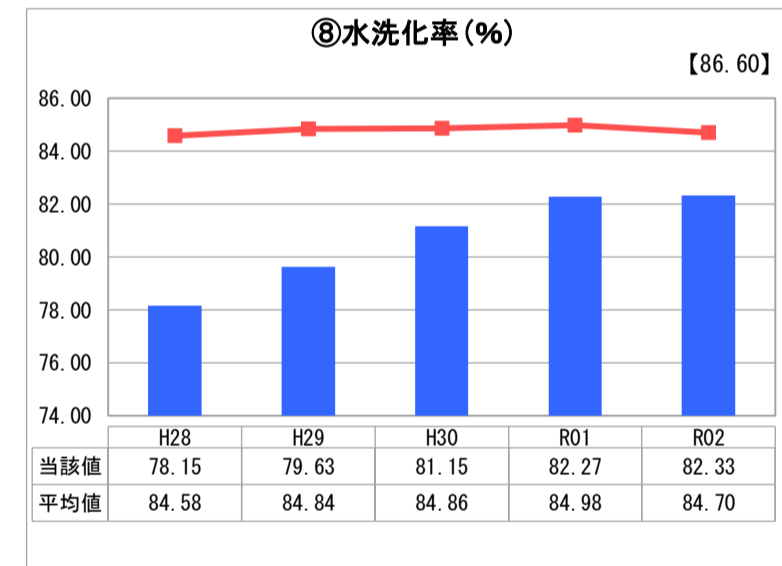
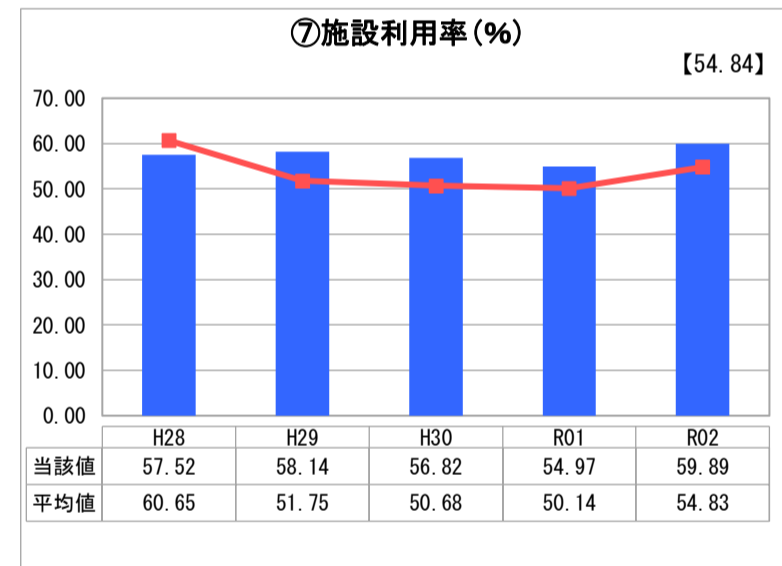
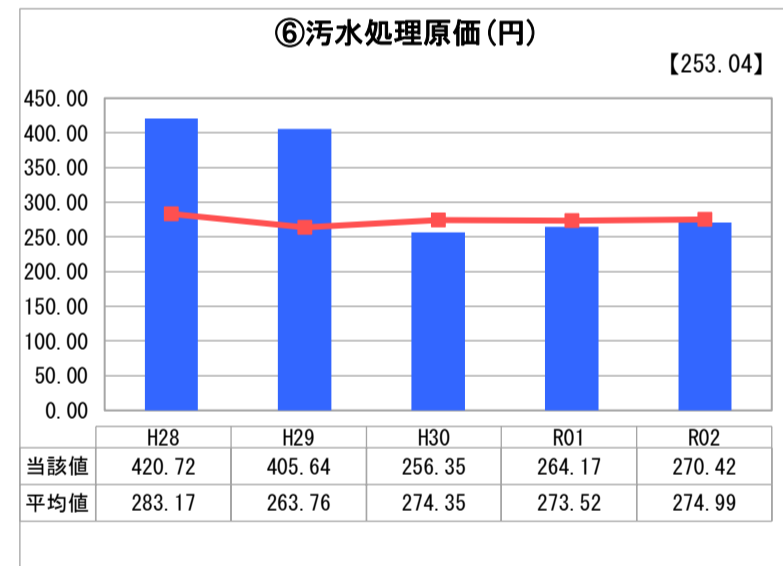
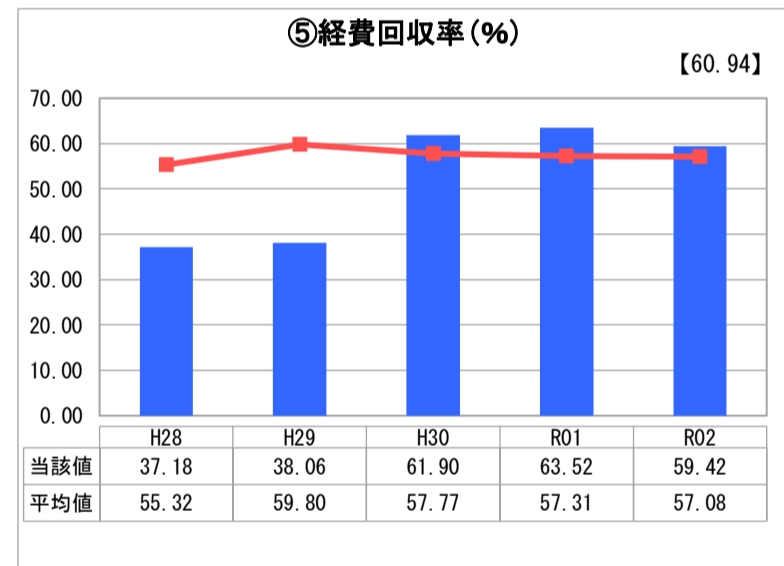
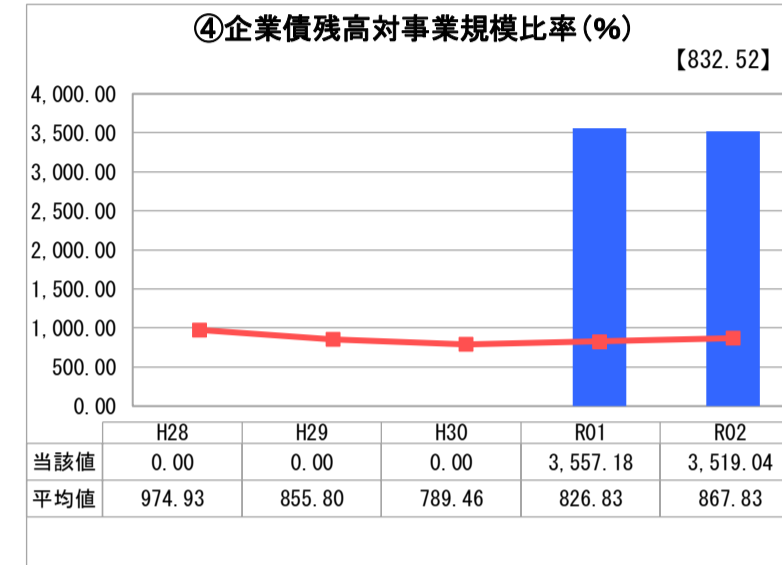
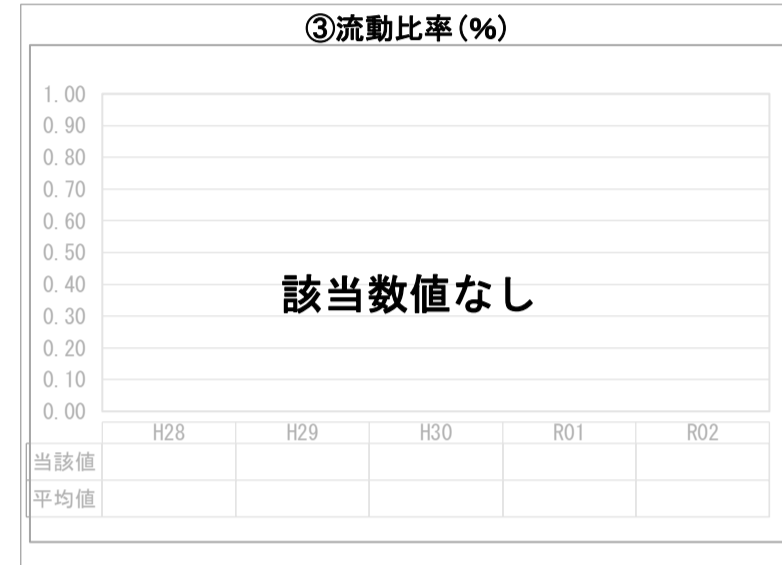
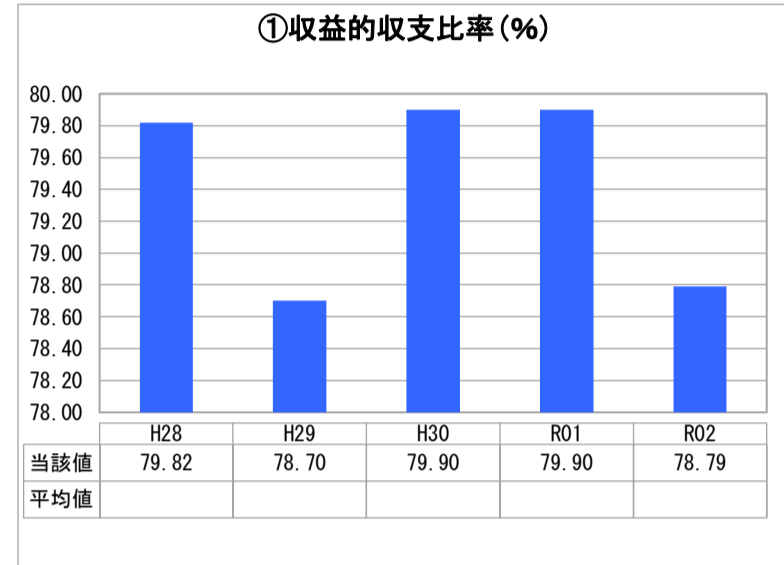
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	11.91	90.53	2,783

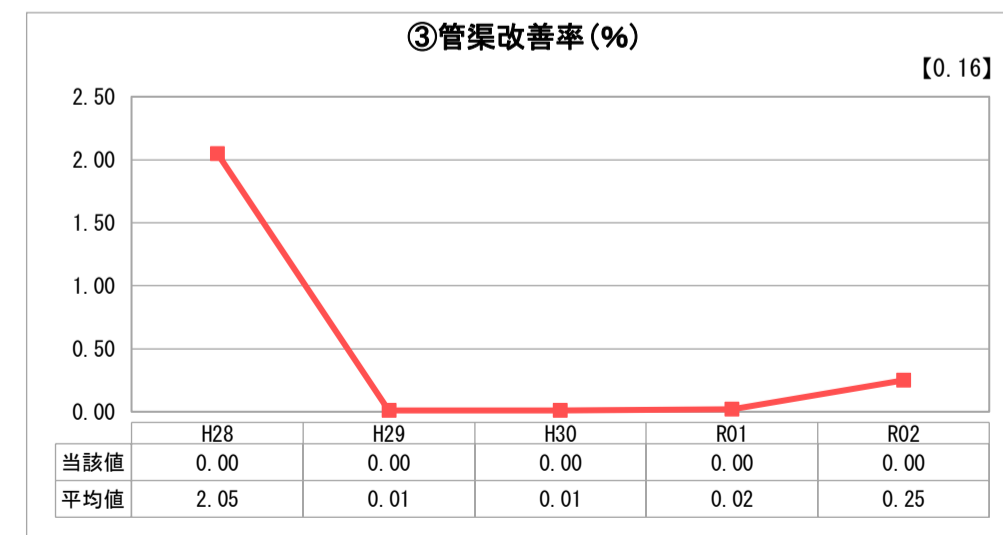
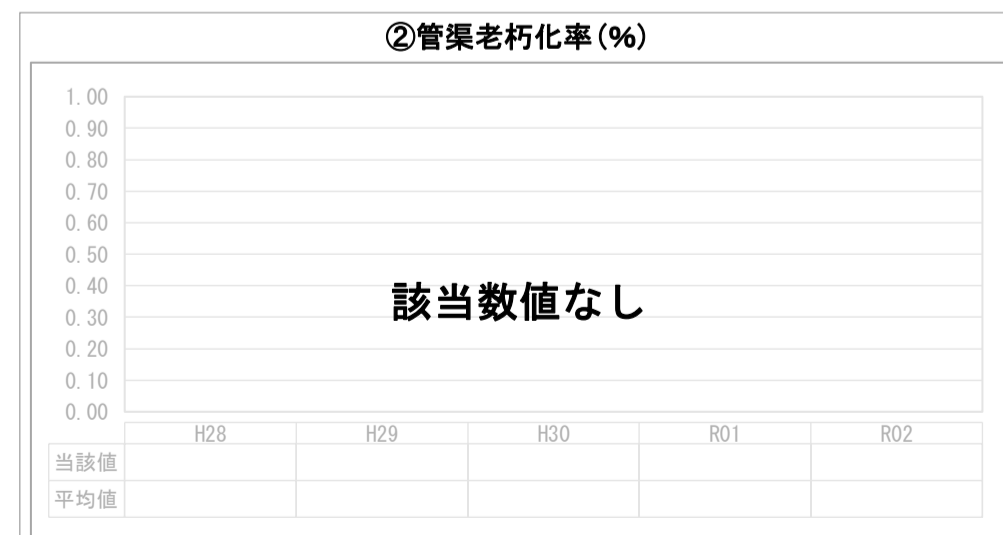
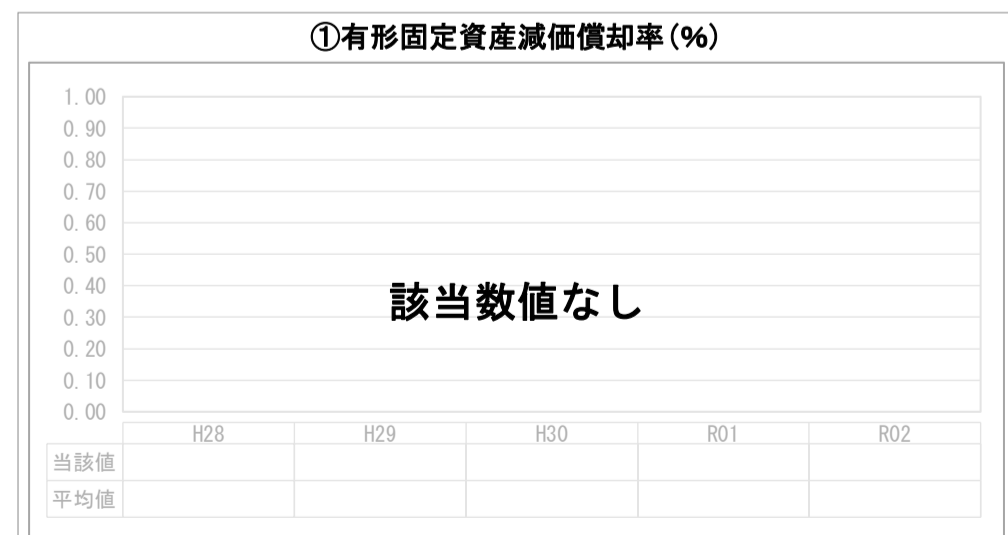
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,581	253.88	88.94
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,671	1.64	1,628.66

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」について、平成29年度途中に大口使用者の使用料算定の見直し（算定基準を実際の使用量に変更）を行ったことにより、使用料収入が増加し、平成30年度から数値が改善した。しかし、維持管理費や地方債償還元金の増加に加え、人口減少による使用料収入減により、前年度よりも低い比率となっている。今後も、料金収入の減少や維持管理等の増加が予想されることから、この比率は減少していくものと見込んでいる。

④「企業債残高対事業規模比率」については、企業債残高の償還を一般会計からの繰入で行うことを決めていなかったため、平均を大きく上回った。今後は適切な比率となるように努めていく。

⑤「経費回収率」は、使用料の減少、汚水処理費の増加により、前年度より減少した。今後も適正な使用料の設定に努めていく。

⑥「汚水処理原価」は、有収水量の減少、汚水処理費の増加により、前年度より微増となった。施設規模が小さく、維持管理費のコストは高くなる傾向にあるため、今後は効率的な維持管理を実施していく。

⑦「施設利用率」は、類似団体平均より高い水準にあり、今年度は平均処理水量が増加したことから、利用率も増加している。今後は人口減少に伴う有収水量の減少が予想されることから、この比率は減少していくものと見込んでいる。

⑧「水洗化率」は、人口減少に伴い、水洗化人口及び処理区域内人口ともに減少しているため大きな変化はない。今後は、水洗化率100%を目指して接続促進を続けていく。

2. 老朽化の状況について

③「管渠改善率」については、当市の供用開始が平成9年であり、管渠も布設から25年程度しか経過していないため、現在の管渠の更新は予定していない。ただし、経年劣化による施設等の修繕が今後見込まれるため、急激な費用が増加することがない様適切な維持管理に努め、費用の平準化を図る必要がある。

全体総括

水洗化率が徐々に向上するとともに、経費回収率も改善しつつある。しかし、施設規模の小ささから、維持管理コストは増大の傾向にあり、今後は経費回収率は低下していくことが予想される。また、今後は公共下水道への接続の検討を行うとともに、適切な施設の整備・更新及び維持管理に努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。